

国語科学習指導案

平成30年10月16日

1 単元名 「竹取物語について、教え合おう」

2 単元の見目

- 「竹取物語」の世界観や作品の内容に触れ、作品の魅力や登場人物の人間性を通して作品に触れようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 「竹取物語」の本文や現代語訳から人物の描写に注意して読み内容の理解に役立てることができる。 【読むこと(1)ウ】
- 「竹取物語」を音読し、古典特有のリズムを通して作品の世界に触れることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
5人の貴公子の失敗談を紹介し合いながら、古典作品の内容に触れ、その面白さを感じようとしている。	5人の貴公子たちの心情を読み取ったり、貴公子の失敗談の内容を理解し、貴公子の人柄や心情について読み取っている。 【(1)ウ】	歴史的仮名遣いに注意しながら原文を読み、古典特有のリズムを意識しながら作品を音読している。 【ア(ア)】

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

「中学校学習指導要領 国語編」(以下「指導要領」)解説「読むこと」の言語活動例に「ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。」とある。本単元ではこれをふまえ、古典「竹取物語」に描かれている貴公子達の失敗談を、劇を通して紹介し合うという言語活動を行う。

生徒にとって、古典作品は現代文の作品に比べ、触れる機会やじっくり味わう機会が少ない。また、中には古語で書かれているという理由だけで遠ざけられることもしばしば見受けられる。古典独特のリズムや古人たちが考える作品の世界観を、生徒に主体的に味わわせるためにも、「古典って楽しい」と思わせるような言語活動として本活動を設定した。劇で紹介し合うことで、「古語で書かれている」「何を言っているのかわからない」と、古典作品を敬遠してしまう生徒が親しみやすくなり、内容を理解しやすいかと考える。何よりも友人たちが工夫しながら古典作品の場面を演じ、解説することは生徒達の興味関心を惹きやすいであろう。作品の内容を劇で知り、後の原文を読む際にもイメージが付きやすくなるのも劇で紹介し合うメリットである。

また、「竹取物語」において、喜劇的・悲劇的に描かれる5人の貴公子達の失敗談は、生徒達にとってわかりやすく、親しみやすい内容である。そんな貴公子達の失敗談を互いに劇で紹介し合うという言語活動を通し、生徒達に興味関心を持たせ、主体的に古典作品に親しもうとする態度を養いたい。

(2) 単元で身につけさせたい力

貴公子達の失敗談を、現代語訳を参考にしながら読み取ったことを紹介することを通し、指導要領解説「読むこと」の「(1)ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」に関する力を身につけさせたい。各班に貴公子たちの失敗談を紹介するためには、まず自分が原文や現代語訳を読み込み、内容理解をすることが不可欠である。さらにはそれを人に伝える、紹介するに至るまでには、より深く作品を読み込むことが必要となる。字面から読み取れるものだけでなく、貴公子達やそれを取り巻く人々の心情を読み取り、自分たちなりに表現して紹介しなければならない。生徒たちには、より正確に貴公子達の失敗談を他の班に紹介するために作品を読み込む、といった目的意識を持たせたい。

また、指導要領解説には、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア (ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」とある。本教材は語りに関わる表現の特徴をもっている。例えば、頻出する「なむ」は語りに関わる強調の言葉であるし、指示語の頻用（その・それ）、接続助詞（て）の頻用、長く続く文、文末の簡潔さなどに着目するとよくわかる。繰り返し音読することを通して、言葉の響きや語りのリズムを実感させ、古典の世界に触れさせたい。

(3) (1)、(2)の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

第1学年の学習では「野原はうたう」の単元において、班で協力をして「のはらうた」の朗読会を行った。詩の主題を考え、班で意見交換を行いながら工夫を重ね、主題の意味を伝えるように朗読をするという言語活動を行うことができた。

また、「花曇りの向こう」では人物の心情を会話や情景描写、冒頭と結末に着目して読み取り、班で伝え合う活動を行った。この学習では心情を読み取る上での根拠となる言動や情景描写を抜き出すことが重要である。「なんとなく」で終わらせることなく、班で伝え合うことで人物の心情を、根拠をもって読み取る学習ができた。

これらの学習を基盤とし、本単元では班で協力して内容を紹介し合いながら、古典作品の内容、世界観の理解を深めさせたい。

また、小学校国語科の学習では「枕草子」や「平家物語」、本教材である「竹取物語」の学習を行っている。古典作品を読んで自らの感想を持つこと、序文を暗誦することを通し、ある程度古典に触れてきている。しかしながら序文を暗記することなどを重点的に行っており、内容の面白さに触れられた生徒は多くない。そこで本単元では、内容の面白さを紹介し合うという単元を設定した。

6 単元の指導計画（7時間扱い）

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「竹取物語」の成立年代や時代背景について知り、作品についての知識を深める。 ・学習の見通しを知り、どのような力を身につけようとしているのかを確認する。 ・「竹取物語」の原文（序文・帝の嘆き）を音読し、作品に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学習の継続性を確認する。 ・古典に親しもうとする態度の重要性を伝える。 <p>◇歴史的仮名遣いに注意しながら原文を読み、古典特有のリズムで作品を音読しようとしている。（観察）</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳を参考にしながら教科書を読み、「竹取物語」のあらすじをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原文と現代語訳を比較しながら読み、作品の大まかな流れと重要古語の意味を確認する。
3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・5人の貴公子達の失敗談を各自で読み取る。その後、班ごとに交流して内容を確認する。 ・違う班に貴公子達の失敗談を紹介する準備を行う。 ・モデルケースとして、教員による紹介劇の映像を見せる。 <p>《班の構成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6人班×5グループ (リーダー・演者・ナレーター) ・リーダーを指名し、準備が円滑に進むようにグループ分けを行う。 ・読み取りのポイントに気をつけながら班で協力し、台本を作成する。 ・一人一人に役割があるように演者・ナレーターを分担する。 <p>・台本作成で必要になった小道具を作製する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳及び注釈（「ビギナーズクラシックス 竹取物語」角川文庫）を配付し、以下に留意して内容理解をさせる。 <ol style="list-style-type: none"> ①どんな試練を与えられたのか。 ②試練に対し、貴公子達はどう取り組んだのか。 ③貴公子達はどんな結末を迎えたのか。 ④貴公子達はどんな思いで試練に臨み、結末を迎えたのか。 ⑤貴公子達の物語からどんなことを読み取ったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・以上を踏まえ台本を作成させ、点検を行い、読み取りが大きくそれないように指導する。 <p>◇5人の貴公子達の心情を読み取っている。（観察・ワークシート）</p>

<p>6 (本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに担当する貴公子の失敗談の紹介劇を、読み取った心情を交えながらクラスに発表する。 ・紹介劇を通し、5人の貴公子達の失敗談について印象に残った部分を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇5人の貴公子の失敗談を紹介し合う言語活動を通し、古典作品の内容に触れ、その面白さを感じようとしている。(観察・ワークシート) ◇5人の貴公子達の失敗談の内容を理解し、印象に残った部分を考えている。(観察・ワークシート)
<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを振り返り、印象に残った部分として特筆すべきものを学級で振り返り、原文を確認する。 ・原文にてそれぞれの貴公子達に対するかぐや姫の反応を確認する。 ・学習のまとめとして、感想を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の読み取りを確認し、読み取りの根拠を原文から確認する。 ・失敗談の結末として、かぐや姫がどう反応したのかを原文で確認させる。 ・単元のまとめとして感想を書かせ、発表させる。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ①「竹取物語」の世界観や作品の内容に触れ、作品の魅力や登場人物の人間性を通して作品に親しもうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ②5人の貴公子達の失敗談の内容を理解し、貴公子の人柄や思いをとらえる。

(読むことウ)

(2) 本時の学習活動

5人の貴公子達の失敗談を、紹介劇を通じて紹介し合い、理解した内容をふまえて印象に残った部分を考える活動を行う。前時までに生徒は、現代語訳を参考にそれぞれ担当する貴公子達の失敗談を紹介する劇の準備を進めている。本時はその紹介劇を発表し合い、古典の作品の面白さに触れるとともに、内容の理解に役立て、印象に残った部分を考える時間とする。劇の出来によってのみ興味関心を惹くのではなく、内容を理解すること、そしてその面白さを知ることなども通し、生徒たちの、古典に対する主体的な学びの態度の育成を図る時間としたい。

(3) 本時の展開 (7時間扱いの6時間目)

	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
導入	○学習の見通しをもつ。	
	本時の目標「貴公子達の試練を紹介し合い、印象に残った部分を見つけよう」	
		・前時までの活動を振り返り、班ごとに読み取った貴公子達の失敗談を紹介することを確認させる。
展開	○班ごとに担当する貴公子の失敗談を劇形式でクラスで紹介する。 《発表の流れ》※4分以内 ・担当する貴公子の紹介 ・場面の紹介 ・寸劇 ・班で読み取った貴公子の思いを発表 ↓ ・感想メモ記入 ※2分以内	・聞く生徒たちに聞き取りシートへの記入を行わせ、内容理解を図る。 ・それぞれの班の紹介を聞いた感想を述べさせる。 ◇「竹取物語」の世界観や作品の内容に触れ、作品の魅力や登場人物の人間性を通して作品に親しもうとしている。 (観察・ワークシート)
まとめ	○紹介劇をふまえ、貴公子の失敗談について印象に残った部分を考える。 ○次回の学習の見通しを持つ。	・感想メモを参考に考えさせ、発表させる。 ◇5人の貴公子達の失敗談の内容を理解し、印象に残った部分を考えている。 (観察・ワークシート) ・ワークシートを回収し、次時に印象に残った部分の主だった部分を原文で確認することを示す。